

優秀賞

二〇三〇年に向けて

新十津川町立新十津川中学校 3年 ^{しみず}清水 ^{かな}花菜



SDGs。この言葉を近頃よくテレビの情報番組や新聞で聞いたり、見たりします。私の大好きなディズニーの会社も取り組んでいると聞き、SDGsに大変興味を持ちました。実際SDGsとはどのようなことなのでしょう。

貧困、紛争、感染症、気候変動、資源の枯渇など、このままでは人類が安心してこの世界で暮らし続けることができなくなってしまうと言われていています。その解決のため、二〇三〇年までに達成すべき具体的な目標を立てました。それがSustainable Development Goals。つまりSDGsです。国連サミットで採択されたもので、十七個の目標があり、貧困や飢餓、男女平等、経済成長など、とても自分の関わることのできる話ではない気がしていました。しかし、そのSDGsの取り組みが、私の住む町、ここ新十津川町でもされていると聞き、とても驚きました。

ここ空知は約一三〇年前、炭鉱で栄えていました。当時、炭鉱の岩盤を支える杭木のために、新十津川町にたくさんのカラマツが植えられました。今では大量のカラマツの木は炭鉱が閉山したために使われなくなりました。そこで、カラマツの木が他の木々の成長の妨げになってしまうため、町は木を伐採しチップにして燃料にする取り組みを始めました。この燃料は温泉や温水プールの加熱、体育館の暖房に使っています。これは年間七七〇トンという大幅な二酸化炭素の削減につながっている、とのこと。

これは、SDGsの十七の目標の七番「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」、十二番「つくる責任・つかう責任」、そして十五番「陸の豊かさを守ろう」の三種類もの目標に当てはまる取り組みです。また、新しい役場庁舎も町民の安全を守るため災害に強く百年後まで使える建物で、SDGs十一番「住み続けられる町づくりを」に当てはまります。

こんな小さな町でも、この壮大な目標の実現のためにできることがあるのです。

そう考えると、自分の住む町がとても誇らしく感じました。それと同時に、今を生きる私たちの事だけでなく、遠い未来の子孫たちも安心して暮らせる環境を目指すSDGsの重要性を強く実感しました。

SDGsの十七個の目標は、二〇三〇年までに実現するのは、とても難しいものばかりだと思います。しかも、私たちに残された時間はあと九年しかありません。このままでは採択した国連の力だけでも、各国の政治家の力だけでも達成するのは不可能でしょう。目標を達成させるためにはこの世界に住む一人一人が、今あるたくさんの問題をまずはきちんと知ることが第一歩です。そして世界を変えるために何をしなければならないのかを考え、SDGsの実現のためにできることはないか、いつもアンテナをはる。そんな人が増えると誰もが安心して暮らせる明るい未来が近づいてくると思うのです。

関係ない、無理、ではありません。九年後の二〇三〇年に二十三歳になっている未来の自分自身のためにも、持続可能な世界を創る一歩を踏み出したいと思います。